

(六月のことば)

宗家

自分を振り返る時

吟の音意味を思いつ時

試練の時が続く

この三、四、五月と自粛生活が続き、今までに経験の無い不自由と困難な生活と行動を強いられた。六月に段階的に緩和され、せめてこの光明が見えた。

岳精会活動も、各会支部・教場では様々な思いで堪え忍んでるが、この先、手探りで工夫して活動が始まるものと思おう。しかし、予断は許されない。

過去に於いて、例え人為的であっても、なくとも、人間の力ではどうしようもないものに出くわしている。その都度ダメージを受け、それでも再び立ち上がる。その繰り返しだが人間の歴史かと思えてくる。この度「龍吟・特集版」を見ると、会員の皆様の真摯な姿に触れる思いで、岳精会に身を置く幸せを思おう。

今、謙虚さとたゆまぬ努力、宿命に負けない心を持つ事に心新たにしよう。この様な経験を何か人生の糧としたものだ。

(令和二年六月)